

## 第3章 環境の将来像及び環境目標

第1節	計画の理念	35
第2節	理念実現の方向性	36
第3節	環境の将来像	37
第4節	基本目標及び環境目標	38
第5節	シーズ・プロジェクト	41





# 1 計画の理念

この計画は、環境基本条例に位置付けられた次の理念の実現を目的とします。

## 土浦市環境基本条例の理念

- 環境の保全及び創造は、現在及び将来の市民が環境からの健全で豊かな恵みを十分に受け取り、健康で文化的な生活を営むことができるよう適切に行われなければならない。
- 環境の保全及び創造は、環境に限りがあるとの認識の下、環境への負荷の少ない循環を基調とする社会が築かれるよう適切に行われなければならない。
- 環境の保全及び創造は、市、事業者、市民等が公平な役割分担と責務の自覚の下、協働して積極的に行われなければならない。
- 霞ヶ浦その他の豊かな自然、歴史及び文化は、土浦らしさを表す風土として保全するとともに、新たな風土を創造しつつ、これらを将来の市民に継承していかななければならない。
- 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに市民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上での課題でもあることから、事業活動や日常生活が地球環境に及ぼす影響を十分認識し、国際的な協調の下、地球環境の保全に資する行動により、積極的に推進されなければならない。

## 2 理念実現の方向性

### 『自然』、『暮らし』、『まち』の共生

第2章のとおり、土浦市では、生活環境や自然環境に様々な問題が生じていて、これらの問題は私たちの暮らしを脅かすとともに、地域の豊かな自然への脅威となりつつあります。

これら環境問題の根元的な原因は、これまでの自然の循環のあり方から切り離された私たちの生活や事業活動（『暮らし』）による環境負荷の増大、自然の大切さを省みずに、発展や経済性を求めてきた開発など（『まち』）、人間の都合を優先してきた私たちの営みにあるといえます。

自然環境は私たちの生存の基盤であり、私たちがその中に属しているものです。また、人間の科学技術や認識は日々進歩していますが、常に不確実性も残されており、私たちが、自然の姿を全て理解し尽くすことはありません。自然環境、特に生態系に対して、このような謙虚な気持ちを持ち、その保全に努めることが、現在ほど必要とされている時代はありません。

土浦市環境基本計画では、このように、「自然」の基盤の上に私たちの「暮らし」、「まち」があるという認識に立ち、自然環境の保全を優先しつつ、慎重に自然の利用を図るという姿勢のもとに、「自然」、「暮らし」、「まち」の共生の確立を目指していきます。



## 3 環境の将来像

私たちは、「自然」、「暮らし」、「まち」の共生の上に、目指すべき土浦市の環境の将来像を描くこととします。

それは同時に、これまで先人達が霞ヶ浦や筑波山麓などの地域の自然との関わりの中で、農業や漁業を営み、また、堀や水路の巡る城下町を築き、培ってきた地域固有の文化に学び、霞ヶ浦から筑波山麓に至る自然と共生する新たな“水郷の文化”の創造を目指すことでもあります。

以上の認識の下、次に掲げる「環境の将来像」と、将来像を実現するための「3つの基本目標」を設定します。

### ■ 環境の将来像

## 自然と暮らしが循環の中で共生する 『水郷の文化』が息づくまち・つちうら

#### ■基本目標（自然）

霞ヶ浦の豊かな自然をはぐくむ、清らかな水の流れと筑波山麓の緑が連なる水郷を守る。

#### ■基本目標（暮らし）

地域への愛着と節度ある暮らしに支えられた循環型社会\*を築く。

#### ■基本目標（まち）

歴史と文化の薫りの中でだれもが生き生きと暮らしを楽しめるまちを創る。



## 4 基本目標及び環境目標

基本目標を達成するための目安となる基本的な環境要素ごとに更に細かな指針としての環境目標を設定します。

### ■ 基本目標（自然）

霞ヶ浦の豊かな自然をはぐくむ、清らかな水の流れと筑波山麓の緑が連なる水郷を守る。

水や空気や土などの自然環境の構成要素の健全性を維持していくことが私たち人間のみならず、すべての生命の生存を保障する上で最も重要です。

特に近年では、地球の温暖化や霞ヶ浦の水質汚濁に見られるように、私たちの生存を保障する自然環境の悪化が懸念されています。生命の源である地球環境の保全はもちろんのことですが、私たち土浦市民にとっては、郷土の自然の基盤であり、また、私たちの歴史と文化をはぐくんできた母なる湖“霞ヶ浦”の再生が、自然環境の保全、修復、創造の象徴として、重要なテーマとなります。

日常生活や通常の事業活動を通しての霞ヶ浦や流域の河川の水質浄化はもちろんのこと、良質な水の循環を保証する健全な緑や土の浄化力を保つことも重要です。

そのためには、水辺や里山\*などの自然とのふれあいを通じて、自然環境の保全などへの関心を高め、水と緑が有機的に連なり、豊かな生態系が保たれる水郷の環境を地域で維持、保全、育成していく仕組みを築いていくことが必要となります。

以上のような観点から、自然の基本的構成要素について、次のような環境目標を設定します。

- |         |           |                       |
|---------|-----------|-----------------------|
| 【環境目標1】 | 水（水環境）    | 安心して飲める水              |
| 【環境目標2】 | 空気（大気環境）  | 深呼吸が心地よい、さわやかな空気      |
| 【環境目標3】 | 土（土壌環境）   | 水の循環を支える、汚染のない健全な土    |
| 【環境目標4】 | 霞ヶ浦・河川の自然 | ヨシがそよぎ、生き物が豊富な水辺      |
| 【環境目標5】 | 山林と里山*    | 緑の連なり、木漏れ日のもりに息づく里の営み |
| 【環境目標6】 | 自然とのふれあい  | 遊び、学び、みんなで支える自然       |

## ■ 基本目標（暮らし）

地域への愛着と節度ある暮らしに支えられた循環型社会\*を築く。

今日の環境問題の多くは、私たちの便利な暮らしとそれを支える産業活動から生じる多大な環境負荷を背景としており、環境と共生する社会を築いていくためには、私たち一人ひとりの環境への意識を高め、循環を基調とした新しい暮らし方や事業活動を確立していかなければなりません。

化石燃料を主体とするエネルギーの消費は、大量の温室効果ガス\*の排出を招き、その影響は地球規模の気候変動を引き起こすほどとなっています。市民や事業者の努力により、省エネルギー型の社会を築くとともに、新エネルギー\*など環境負荷の少ない、再生可能なエネルギー利用への転換を進めていく必要があります。

また、私たちの暮らしに伴う大量の廃棄物についても、これまでの焼却や埋め立てを基本とした処理システムは破綻しつつあり、早急な対応が必要となっています。不要なレジ袋や包装を断るなど、ごみの発生を抑え、ごみの排出をできるだけ抑制するとともに、廃棄物を再使用し、再生利用して、社会の中で循環させていく新たな仕組みを早期に構築していかなければなりません。

産業型公害\*は減少しつつありますが、新たな有害化学物質\*等が明らかになっており、私たちの暮らしを脅かしています。新たな環境問題の発生に対する監視や規制の体制を強化し、安全で健やかな暮らしの場を維持していく必要があります。

さらに、近隣関係の希薄化等を背景に、ごみの不法投棄、騒音や悪臭などを招く、マナーに欠けた暮らしが増加しています。地域への愛着と近隣への思いやりをはぐくみ、まちの美観や暮らしの快適性を守っていく必要もあります。

以上のような観点から、暮らしの基本的構成要素について、次の環境目標を設定します。

【環境目標7】 資源・エネルギー

資源を大事に使う、環境に思いやりのある暮らし

【環境目標8】 廃棄物

ごみの少ない、ものを大切にする暮らし

【環境目標9】 身近な生活環境

平穏で、健やかな暮らし

【環境目標10】 マナー・モラル

良識と思いやりを支えられた快適でさわやかな暮らし

## ■ 基本目標（ま ち）

歴史と文化の薫りの中でだれもが生き生きと暮らしを楽しめるまちを創る。

土浦市は、県南の中心都市として成長を続けてきましたが、近年は、人口の増加は停滞傾向を示し、開発等の動向も落ち着きを見せ、都市としての成熟期を迎えつつあります。

今後は、環境との共生を図りながら、暮らしの“ゆとり”や“うるおい”を実感することのできる都市環境の質の向上を目指していかなければなりません。

そのためには、道路や公園等の基本的な都市基盤の充実を図るとともに、緑や水辺等の空間、景観の整備など、地域の特性を生かしながら、都市の快適性や魅力を高めていく必要があります。

また、今後の高齢社会を迎えるに当たり、すべての人が積極的に社会参加できる基盤を用意していく必要があります。安全で快適な人に優しい歩行者空間の確保や、自家用車に頼らずに公共交通等による移動ができる交通手段の確保は、排気ガス削減の観点からも重要となります。

古くから人が暮らしてきた土浦市には、多くの史跡や文化財、民俗的な風習や伝統が残っています。これらの歴史的な遺産は、土浦の歴史と文化が結晶した貴重なまちの財産であり、はからずも、私たちが忘れかけている自然と共生し、また、資源を循環利用する暮らしの中ではぐくまれてきた一面も持っています。私たちはそれらを守り、次代へと受け継いでいく責任を負っています。また、城下町の面影を残す町並みや寺社等は、まちの薫りや表情に深みを与えるまちづくりの貴重な資源となっており、土浦らしさをはぐくんでいく上で、積極的に保全し、活用していく必要があります。

以上のような観点から、まちの基本的構成要素について、次の環境目標を設定します。

【環境目標11】

ま ち

緑と水辺がすがすがしい、美しい町並み

【環境目標12】

交通・みち

だれもが安心して歩ける、散歩が楽しいまち

【環境目標13】

歴史・文化

郷土の歴史と文化が薫るまち

## ■ 共生と循環を支えるパートナーシップ

先に掲げた基本目標を達成し、環境の将来像を実現していくためには、私たちの暮らしが環境に与える多大な影響を各自が深刻に受け止め、良好な環境の保全と創造に対する一人ひとりの自覚と責任に基づく草の根の行動を隅々まで広げていくことが重要となります。

そのためには、次代を担う子ども達はもとより、あらゆる世代に向けた環境教育・環境学習を着実に展開し、良好な環境の保全と創造の意識の浸透と適切な行動を、習慣として根付かせていく必要があります。

また、様々な主体がかかわり、原因や影響が広範囲にわたる環境問題を解決していくためには、市民、事業者、行政がそれぞれの役割を適切に分担し、協力し、連携するパートナーシップを築いていく必要があります。

各主体の親密な連携をはぐくむ交流の基盤やネットワークを構築するとともに、市民の活動の基盤となるまちづくり市民会議\*（各地区市民委員会や各町内会を含む）を始めとして環境の保全や創造に取り組む市民団体、事業者団体などの民間団体\*やボランティアなど、地域の優れた人材や知識を広く共有し、活用できる仕組みを構築していく必要があります。

基本目標を実現していくための仕組みとして、以上のような、パートナーシップの形成を目指し、次の環境目標を設定します。

【環境目標 14】

パートナーシップ

環境を守り、はぐくむ、知恵と行動の輪を広げる

## 5 シーズ・プロジェクト

本計画に掲げる環境目標を達成していくためには、市民、事業者、行政が連携し、相互に協力する協働体制を築いていかなければなりません。そのためには、各主体が具体的な行動を起こし、成果を積み重ね、主体間の信頼関係をはぐくんでいく必要があります。

各主体が取組を進めるとともに、その連携をはぐくむことで、重点的に取組を進めていく必要のある分野について、「シーズ・プロジェクト」を定めました。

シーズ・プロジェクトは、対象とする分野において市民、事業者の取組を促すとともに、そこで培った主体間の連携を活かし、他の分野においても自主的な環境保全等の取組が幅広く展開されるようにすることを目指しています。

【プロジェクト1】 水質浄化の推進

【プロジェクト2】 省エネルギー化及び新エネルギー\*利用の推進

【プロジェクト3】 ごみの発生抑制、排出抑制、再使用及び再生利用の推進

【プロジェクト4】 ビオトープ\*の整備及び生態系の保護

【プロジェクト5】 環境教育及び環境学習の充実

## ■ 環境の将来像及び環境目標

### 【土浦市の環境の特徴と主な課題】

- 水（水環境）

水郷として豊富な水資源に恵まれているが、生活排水や農業などの面源の負荷による窒素やりんなどの増加に伴い、霞ヶ浦などの富栄養化が進み、多くの地点で環境基準未達成となっており、改善の必要がある。
- 空気（大気環境）

概ね良好な状況にあるが、一部地域で浮遊粒子状物質、光化学オキシダントが環境基準未達成であり、自動車交通等による都市型公害の兆しが見られる。  
二酸化炭素、フロン排出が地球環境上の問題となっており、改善の必要がある。
- 土（土壌環境）

概ね良好な状況にあるが、硝酸性窒素対策を行うほか、ダイオキシン類等の環境汚染の発生を未然に防止する必要がある。
- 霞ヶ浦・河川の自然  
霞ヶ浦や河川、ため池などの自然豊かな水辺に恵まれ、地域の風土や文化の特徴となっているが、護岸のコンクリート化や水質の悪化、砂浜・アシ原の減少、外来魚の侵入等により、地域固有の生態系や貴重な水産資源の生息環境が失われつつあり、その復元の必要がある。
- 山林と里山  
筑波山麓、谷津田や平地林など、緑豊かな里山が残されており、貴重な動植物も確認されているが、開発や農業の衰退により平地林や農地の減少、荒廃が進むとともに、水路のコンクリート化等により、里の生き物の生息環境が悪化しており、その復元の必要がある。
- 自然とのふれあい  
地域の自然に触れ、学ぶことのできる環境教育学習の場の整備を進め、活動を市民に広げていく必要がある。
- 資源・エネルギー  
電気やガス、燃料などの省資源、省エネルギー化を進めているが、新エネルギー利用への転換は進んでいない。また、水道利用も年々増加しつつあり、節水にも努めていく必要がある。
- 廃棄物  
ごみの排出量は減少傾向にあるが、リサイクル率は横ばい傾向にあり、一層の推進が必要となっている。
- 身近な生活環境（騒音、振動、悪臭、有害化学物質等）  
工場等による産業型公害の改善は進みつつあるが、ダイオキシン類、内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）、アスベスト（石綿）等問題に対処していく必要がある。
- マナー・モラル  
自己中心的で他人への配慮に欠けた行動が目立つようになり、ごみの散乱や、近隣騒音等を招き、まちの環境を損なう傾向が強まっており、マナー・モラルの高揚が必要となっている。
- まち  
公園等の整備を進めるとともに、地域の水や緑を生かしたうるおいやゆとりのあるまちづくり、調和の取れたまちづくりに一層取り組んでいく必要がある。
- 交通・みち  
自動車の増加に対する道路整備が追いつかず、一部において渋滞や住宅地への通過交通の侵入を招いており、歩行者の安全性・快適性が損なわれており、改善の必要がある。
- 歴史・文化  
商家や寺社などが多く、城下町の風情を留めているが、歴史的建造物や風習などが徐々に失われつつあり、歴史的文化的資源を生かしたまちづくりをさらに進める必要がある。
- 環境教育・環境学習・パートナーシップ  
市民団体等の一部において自主的な環境学習や保全活動等が始められているが、市民や事業者や行政が協働してそれらの活動を拡大していく必要がある。

### 【土浦市環境基本条例の基本理念】

- ・現在及び将来の健康で文化的な生活を守る。
- ・環境への負荷の少ない循環型社会を築く。
- ・市民、事業者、市等が協働して取り組む。
- ・霞ヶ浦等の豊かな自然と郷土の歴史・文化を守り、継承する。
- ・地球環境の保全のために、国際協調した行動を起こす。

### 市民が望む【環境の将来像】

自然と暮らしが循環の中で共生する  
『水郷の文化』が息づくまち・つちうら

#### 【基本目標(自然)】

霞ヶ浦の豊かな自然をはぐくむ  
清らかな水の流れと筑波山麓の  
緑が連なる水郷を守る

#### 【基本目標(暮らし)】

地域への愛着と節度ある  
暮らしに支えられた  
循環型社会を築く

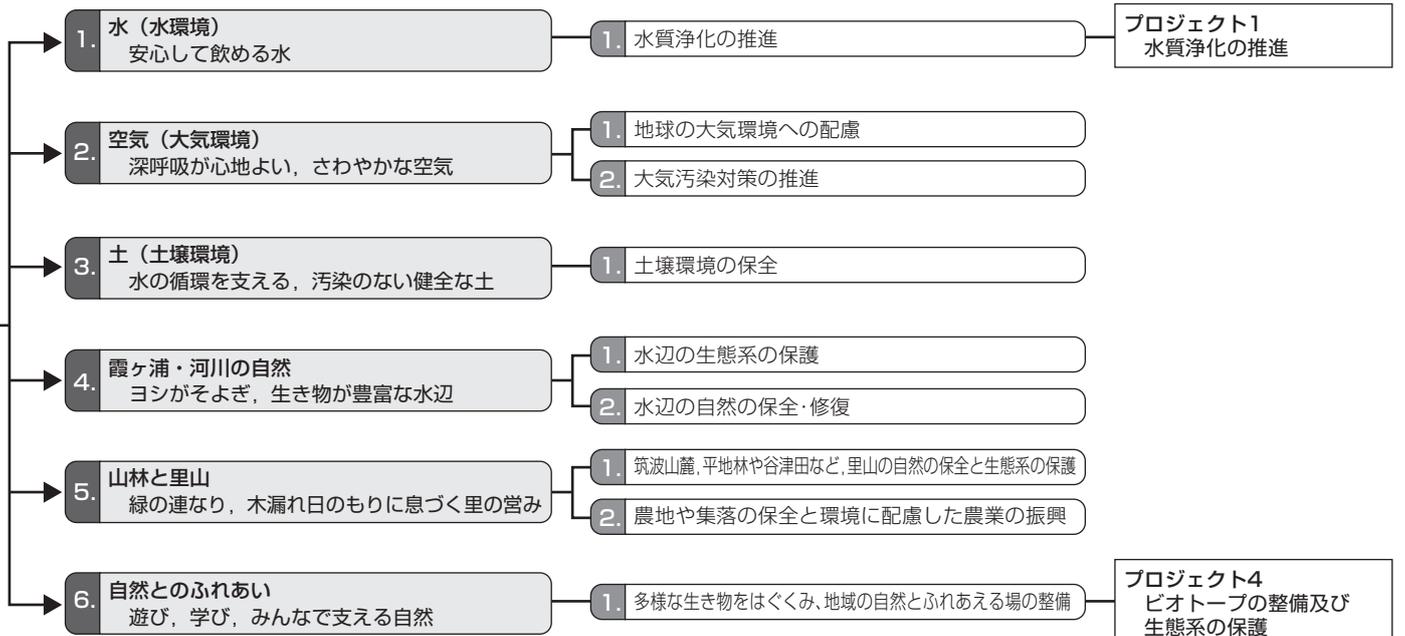
#### 【基本目標(まち)】

歴史と文化の薫りの中で  
だれもが生き生きと暮らしを  
楽しめるまちを創る

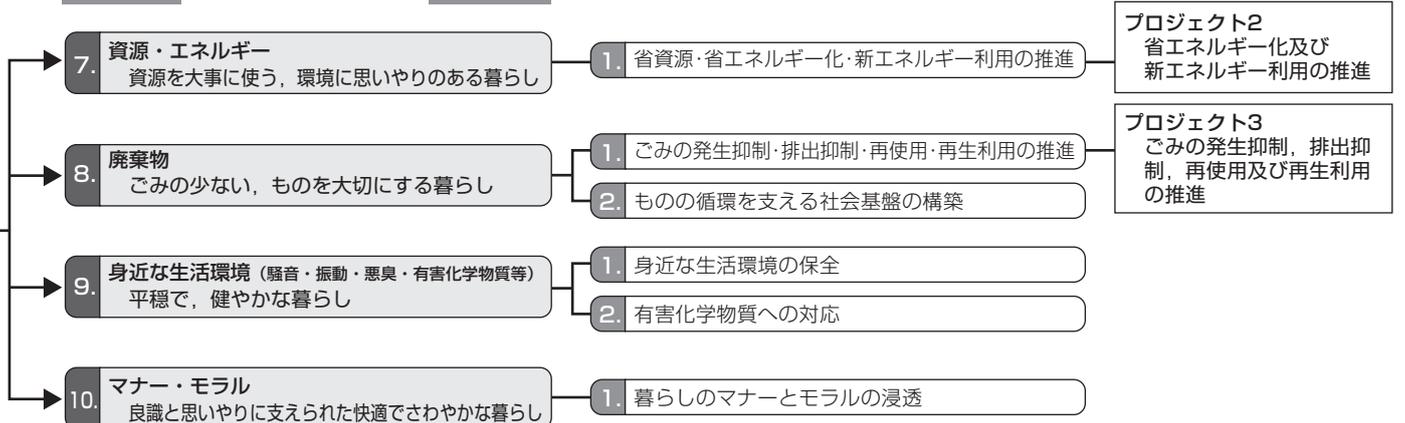
■ 環境目標(自然)

■ 主要施策

■ シーズ・プロジェクト



■ 環境目標(暮らし)



■ 環境目標(まち)



■ 共生と循環を支えるパートナーシップ

